



鳳来湖8月号



川合駐在所 野田哲男
新城警察署 22-0110

海、川、山の事故危険はいつもすぐそこに ～ちょっとした注意や事前の準備が大切です～

夏は海や川、山など、アウトドアでのレジャーを楽しむ機会が増える季節です。

今夏は早い時期から猛暑に見舞われ、例年より早くプールや川、海に行く機会も増えているのではないのでしょうか。それに伴い連日の様に、水にまつわるニュースを見聞きしていることと思います。

今回は水にまつわる事故防止について紹介します。

【水難防止】

- ◎ 危険箇所の把握 ～水流の激しい場所、深みのある場所等の危険箇所を事前に把握し近づかない、子供を近づかせない **※自然の水遊び場の目安はひざ下水位**
- ◎ 的確な状況判断 ～天候不良時や体調が悪いときに海、河川に入らない **※飲酒をしたときは厳禁**
- ◎ 保護者等の付添い ～子供だけでは水遊び等をさせず、幼児や泳げない学童等には、必ずライフジャケットを着用させる **※大事なのは付添うことではなく子供から目を離さないこと**

《もし溺れている人がいたら》

- 1 まず周りに助けを求める
- 2 溺者には「浮いて待て」と声掛け
- 3 浮力のある物を渡す 例：ペットボトル、浮き輪等

× 浮力となるものを何も持たず泳いで助けるには、特別な技術を必要とするため危険です！

【併せて関係機関（110・119）に通報しましょう】



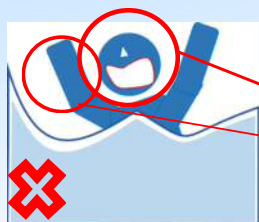
背浮きのポイント

《そもそも人はどれだけ浮くのか？》

プールに立って大きく息を吸い込んでから、足を折りたたんで体を沈めて浮き沈みが無くなるのを待ってみてください。個人差はありますが、額が出るくらいで止まると思います。

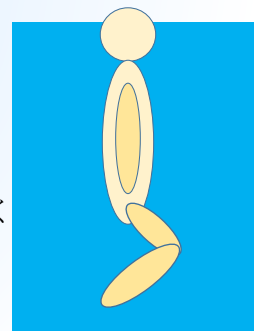
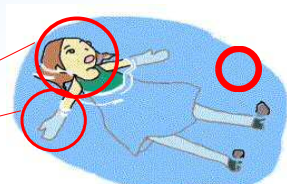
言い換えると、(脱力状態では) 額から上の大きさ分しか水面上に出ません。

➡ そこに（目と）口と鼻を持ってくるには？



頭を上げない / 上を向く（後頭部を水につける）

手を上げない / 手を水につける



どちらもパニックになったら、やっと思い出しがちなことですが、いざと言う時に思い出してください。

また着衣は泳ぎには適さないですが、浮力や保温の効果があるので、背浮きの際に無理に脱ぐ必要はありません。